

大学野球部、全日本大会に初出場

北陸春季リーグ 9連勝でV決める



優勝を決め優勝旗を手に大喜ぶる野球部ナイン

2003年度北陸大学野球春季リーグ戦最終週は五月二十四日、加賀市中央公園野球場で行われ、一部で金沢学院大が福井工大を6-1で下し、9戦全勝として2季連続四度目の優勝を果たした。学院大は六月十日から東京・神宮球場で開かれる全日本大学野球選手権に初出場を決めました。

学院大は初回到徳田、大房の適時打と敵失で3点を先行し、五回に小坂の二塁で1点を加えた。エース森田は11安打を浴びながら、粘り強い投球で福井工大の反撃を1点に抑えた。二十五日の最終戦は0-1で福井工大に完封負けを喫し、9勝1敗で全日程を終えました。角尾貴宏監督は「四年生がしっかりとチームを引っ張ってくれた。試合経験の少ない選手ばかりだったが、1戦ごとに成長してくれた」とナインをたたえました。スタンドに陣取った上山夏樹副理事長は、ナインに「優勝おめでとう。全国大会までにさらに練習に励み、けがをしないで全力を發揮してほしい」と祝福と激励の言葉を送りました。



優勝を喜ぶ教職員の応援団

全日本大学選手権には、二十六連盟の代表が出場し、八日間にわたって熱戦が展開される。三十一日に組み合わせがきまります。学院大では大会日程に合わせて応援バスを準備しています。詳細のお問い合わせは、日程が決まる六月一日以降に、法人部総務課まで、お願いいたします。

応援バス準備

野球部ナインは五月二十六日、北國新聞社を訪ねて、飛田秀一金沢学院大学理事長に優勝と全日本大会出場を報告し、激励を受けました。

理事長に優勝報告

高校相撲金沢大会

生徒・教職員 声からす



健闘の選手をねぎらう生徒・教職員の応援団

東高校、健闘の16強進出

第八十七回高校相撲金沢大会は五月二十五日、金沢市の泉卯辰山相撲場で行われ、金沢東高校チームは決勝トーナメント2回戦(16強)まで進みましたが、五所川原商(青森)に健闘むなしく敗退した。会場には同校の生徒、教職員合わせて約八百人と、金沢学院大学、短大の教職員約八十人が、奮闘する四選手に拍手を送りました。応援団とチアガール、ブラスバンド部が力強く、華麗な

声援を送るなか、東高校チームは、予選三回戦を三勝九点の全勝で勝ち上がり、決勝トーナメントに進みました。しかし、一回戦では安田(新潟)を撃破しましたが、二回戦で惜しくも敗れました。個人決勝トーナメント戦には予選全勝の島和也、北川重政、岡田健太郎の三選手がそろって進出しましたが、いずれも一回戦で涙をのみました。

発行・入試広報部